

○ 日本側所蔵記録

資料番号	J. II-15	資料名	朝鮮通信使上関来航図
------	----------	-----	------------



額装 紙本署色 [縦×横] 60.3×86.8cm

6隻の朝鮮通信使船が長州藩の軍船などに警固・曳航されて瀬戸内海の上関に入港する様子を描く。進行方向から考えて、往路時の記録である。港には通信使の客館となる御茶屋や警固のための番所などがみえる。1763～1764年の使行時のものと推測されている。瀬戸内海を航行する朝鮮通信使船の概要を知ることができる。

資料番号	J. II-16	資料名	正徳度朝鮮通信使国書先導船図屏風
------	----------	-----	------------------



紙本著色 (縦×横) 75.2×510.4cm

1711年に来日した第8次の朝鮮通信使の一行が乗る船団を描いたもの。朝鮮釜山を出発した通信使は大坂上陸後、本国から乗ってきた船から降りて、幕府の命によって諸大名が提供した船底の浅い川御座船に乗り換えて、淀川をさかのぼって京都へと向かった。本図は、通信使の国書先導船を含む三艘の御座船と五艘の伴船を描いている。通信使を出迎え、江戸までの往復を随行する役割の対馬藩宗氏の御座船・鎮鋤丸と国書先導船を描いた大型の絵画作品は極めて稀なものであり、通信使の迎接体制の復元やその研究をおこなううえで大変貴重な資料である。